

令和5年度 第3回学校運営協議会 議事録

1 第3回学校運営協議会概要

日 時 令和6年2月14日（水）15時～
会 場 大阪府立岸和田高等学校 校長室

学校運営協議会委員

和泉市教育委員会委員	中西	正人	様
岸城中学校校長	長岡	英晃	様
岸城幼稚園長	小野	舞	様
同窓会会長	新田谷	修司	様
P T A会長	笹島	潤一	様
元後援会会長	山路	明子	様

学校側参加者

校 長	植木	信博
教 頭	岸野	敏昌
事 務 長	中島	徹
首 席	田坂	太一
首 席	中野	健一
進路指導部長	長谷川	武央

2 次 第

(1) はじめに（司会：教頭）

① 校長挨拶

- ・本日はお忙しい中、第3回学校運営協議会にご出席いただき感謝する。今年度最後となる本日は、令和5年度学校経営計画および令和6年度学校経営計画についてご承認いただきたい。また、第1回学校運営協議会において承認いただき提出していたスクール・ポリシー（案）について、また、今年度の学校教育自己診断の結果と分析について報告させていただく。
- ・加えて、1月13日と14日に行われた「大学入学共通テスト」の結果と分析、1月27日（土）に開催した「文理課題研究発表会（最終発表）」について報告させていただく。
- ・今年度も残り少なくなり、3年生は3月1日の卒業式のみ、1，2年生も授業は今週で終わり週明けから学年末考査が始まる。前回10月11日（水）に開催した第2回学校運営協議会において、学校行事を中心とした教育活動について報告させていただいたが、本日はそれ以降に実施した教育活動について簡単に話しをさせていただく。
- ・第2回学校運営協議会の後、2年生が沖縄へ修学旅行に行ってきた。その後、1，2年生は合唱コンクール、クラスマッチを行った。どちらもとても盛り上がった。
- ・11月11日（土）には本校で初めて保護者を対象とした授業公開を行った。248名の生徒の保護者、家族の方々に来校いただいた。多くの方に来校いただいたこともあり、ぜひとも来年度も継続したいと考えている。

② 学校運営協議委員の自己紹介

③ 本校職員の紹介

(2) 協議

レジュメでは「令和5年度および令和6年度学校経営計画の説明とご承認」が最初にあるが、この後の学校教育自己診断の結果と関連するため、順序を入れ替えて説明させていただく。

① スクール・ポリシーについて（校長より）

【報告】

- ・まずはスクール・ポリシーから説明させていただく。スクール・ポリシーはグラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの3つのポリシーからなる。第1回学校運営協議会においてご承認いただき、8月に教育庁高等学校課に提出していた。先日、その提出した内容を確認の上、返されてきたのがその資料である。
- ・資料にあるとおり、グラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについては提出したものからの「修正はなし」。学校の概要とアドミッション・ポリシーについては、学事グループが確認中である。たくさんの文言（キーワード）を盛り込んで、ここから整理・削減されることも想定していたが、高等学校課からは「修正なし」との返答であった。
- ・この資料にあるアドミッション・ポリシーについては令和7年度入学者選抜から使用するものである。第1回の学校運営協議会において「爽やかで骨太」という文言が抽象的だという意見をいただいたこともあり、令和7年度のアドミッション・ポリシーから削除した。

【質疑応答】 なし

② 学校教育自己診断の結果と分析（校長より）

【報告】

- ・学校教育自己診断（教職員、生徒、保護者）の結果について、令和3年度から経年比較できる資料をお配りしている。まずは、教職員の結果について。昨年度校長となり、「校長は自らの考え方を明らかにしている」、「リーダーシップが発揮されている」、「教育活動に関する評価を行い、次年度に活かしている」などで高い数値を得ることができた。
- ・一方、昨年度から今年度については下がっている項目もある。昨年度は校長として赴任し自らの考えを伝えることに尽力したが、今年度に入り、伝わっているだろうという意識もあり、教員全体に伝えることが不十分であったと考える。異動者のこともあるため、毎年、年度当初には、しっかりと自分の考えや教育方針を教職員に伝えるようにしていきたい。
- ・教職員では、「教育活動について日常的に話し合っている」、「教材の精選・工夫を行っている」、「授業力向上のために他の教員・教科の取組などを参考にしている」などの数値が上がっており、教員の意識の高まりが感じられる。とても嬉しいことである。
- ・生徒と保護者の結果について、特徴的な項目のみ話しをさせていただく。校長として、「岸和田高校に入学して満足している」と「学校に行くのが楽しい」は重視しているが、生徒・保護者ともにこの3年間で最も高い数値となった。とても嬉しい限りである。生徒の結果と保護者の結果がよくリンクしていることから、本校の生徒は家庭で保護者としてしっかりコミュニケーションをとっているものと考えられる。
- ・生徒の「保健室や相談室などで気軽に相談できる」は、昨年度64.4%から今年度は71.8%へと大きく向上した。相談体制は整っていると考えている。1人1台端末の活用についても89.0%から90.3%へと微増ではあるが上昇した。小中学校から端末を活用した生徒が入学してくるので、今後さらに使うことが当たり前になってくるだろうと感じている。
- ・学校の情報の発信についても昨年度より上昇した。校長ブログの更新回数増を今年度の自らの課題として掲げ、取り組んできた成果が現れた結果となった。
- ・学校教育自己診断は生徒・保護者から意見をいただく貴重な機会だと考えている。自由記述に書かれた内容も含め、実現できるよう検討したい。先日も生徒自治会執行部から「寒いのでエアコンの設定温度を上げてほしい」という申し出があり、設定温度を1度上げた。

- ・3ページめからは先ほどお話しした内容も含め、今年度の生徒及び保護者による学校教育自己診断の結果について、令和3年度から3年間の肯定的評価の経緯も見ながら、分析したものである。ご確認ください。

【質疑応答】

(委員) (笹島様)

P T Aでも校長ブログの反響は大きい。文字の量は少なくして校長先生の負担を減らしてもらっては、コンパクトにし更新回数を増やしてもらってはどうかという意見がある。

これまでP T A行事について校長ブログに掲載してもらえるようお願いしてきたが、できればP T A行事のみ「P T Aブログ」として掲載することを検討してもらえないか。

(学校) (校長)

校長ブログについては特に最近文字数が増え、長くなっていると思っていた。「P T Aブログ」については、他にもいくつかのブログがあるため、新たにつくることは可能だと思う。検討する。

③ 令和5年度および令和6年度学校経営計画の説明とご承認 (校長より)

【報告】

令和5年度について

- ・まずは「令和5年度学校経営計画及び学校評価」について説明させていただく。1ページめは第1回学校運営協議会で説明させていただいたとおりで変更はない。2ページめの左側は先ほどの学校教育自己診断の分析の内容を抜粋して記述したものである。右側は学校運営協議会において出された意見についてまとめたものである。すでに第1回と第2回の内容は記述しており、下の空白部分には本日の第3回でいただいた意見を記述し、今年度末に提出する。
- ・3, 4ページ一番右側の列にある「自己評価」が今回記述した内容である。その左列にある評価指標に対して、学校教育自己診断の結果やその他アンケートの結果などを記述し、目標としていた値を踏まえて、◎・○・△の3段階で評価している。
- ・全体的には、学校教育自己診断の結果が昨年度を上回った項目が多くあったことから、◎や○の評価が付いている項目が多い。
- ・「土曜日の午前中を学習時間として活用」について肯定的評価は51.4%であったため「△」。「岸高手帳」の活用度は昨年度を大きく下回り31.0%となったため「△」。SSHアンケート「文理課題研究を通して『知りたい』と言う気持ちが高まった」の肯定的評価も61.5%と下がってしまい「△」。「教育活動の評価を行い次年度の計画に活かしている」の肯定的評価は80.0%となり目標値を下回ったため「△」。「岸高'e'博物館」へのアクセス数(12月末まで)は7,827人と目標値を下回ったため「△」。これ以外の項目は「◎」または「○」がついている。

【質疑応答】

(委員) (小野様)

学校教育自己診断において、教員による「学校は学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう工夫・改善に努めている」の評価は昨年度83.9%から今年度は78.2%と下がっているのに対して、生徒による「学校行事が盛んで、生徒は楽しく参加している」の評価は昨年度90.1%から今年度は92.9%と上がっている。生徒の評価と教員の評価において差があるのはどういう理由からか。

(学校) (教頭)

令和3年度や令和4年度はまだ新型コロナウイルス感染症拡大による規制が残っていたため、どのようにすれば生徒が楽しめるものになるか教員も頭を悩ませ、考えながら工夫していた。その頃と比較すると、教員にとっては、今年度はそこまで工夫・改善したという意識がなかった結果かもしれない。

(委員) (小野様)

学校行事や部活動などが活発であり、生徒が学校を楽しんでいるということをもっとアピールしたらよいのではないかと。

(学校) (校長)

学校説明会などでは生徒が主役になって発表する機会を設けている。例えば説明に入る前に部活動のパフォーマンスを行ったり、説明の中でも生徒に対するインタビューを取り入れたり、生徒に説明をさせたりしている。実際に生徒からは岸高に入学するまでこんなに楽しい学校だと思わなかったという声もある。そういったことを中学生にも伝えていきたいと考えている。直接、生徒の楽しそうに頑張っている姿を見たり、声を聞いたりすることができるということで、参加者からは好評を得ている。

(委員) (長岡様)

岸高手帳を活用する生徒の数値が下がっているのは、教員が求めている部分と生徒のニーズがあっていないからではないかと。

(学校) (校長)

岸高手帳の活用を求める目的は時間の管理(学習時間の確保と学習習慣の定着)であり、そのことについては生徒に十分に伝えてはいるのだが、スマートフォンのアプリなどのほうが便利であるという生徒もいるであろう。岸高手帳については、使っている生徒は便利さを実感している。使っている生徒にとっては「大きいから書き込みやすい」と言うが、使っていない生徒にとっては「大きいから持ち歩けない」と言う。使うか、使わないかにより、同じ物であっても意見は分かれる。

(委員) (長岡様)

社会においてスマホの利用が促進されている状況にあるが、それに伴う社会問題も派生してきている。アメリカでは「SNSの利用に規制が必要ではないか」という報道があった。

(学校) (校長)

先ほどお話ししたとおり、岸高手帳活用のおもな目的は時間(スケジュール)の管理であり、時間を管理するツールが必ずしも手帳である必要はないとも考えている。実際、課題研究で時間割のアプリケーションを作ったグループもあった。

(委員) (笹島様)

P T A行事について、P T Aが参加できる行事を考えてもらえればP T Aの参加率も上がるだろう。文化祭においてはパンの販売を行ったが、とても好評で午前中に売り切れた。体育祭のプログラムの中にもP T Aが参加できる競技を加えてもらえれば有難い。P T Aの担い手が少なくなっていることも課題となっているため、P T Aが参加できる機会が多くなることは、その改善にも繋がると考える。

(学校) (校長)

体育祭にP T Aが参加できないとする理由はないと考える。時間的な制限について確認する。学校教育自己診断の自由記述には保護者も合唱コンクールに参加したいという声がある。岸高ホールのスペースの面で厳しいが、保護者の方々に学校を知ってもらうことや様々な学校行事に参加してもらうことは大事だと考えている。場所や時間の制約に対して、工夫していきたい。

(委員) (中西様)

植木校長が2年めに入って着実に変化が出ていると感じているが、教員からの評価の低下は気になる部分がある。さらなるインパクトが求められているのではないかと。

(学校) (校長)

先ほど話しをさせていただいたが、昨年度に比べて、今年度はすでに理解してもらっているという意識もあり、教員全体に自分の考えや教育方針を伝えることができなかつたと考える。毎年度しっかりと教職員に伝えるようにしていきたい。

(委員) (山路様)

P T A行事に参加することのハードルを下げるためにも、P T A実行委員の方々が直接声かけをしてもらおうとよいのではないか。P T A社会見学に参加したところ、「行ってよかった」という意見をいただいた経験がある。

(委員) (笹島様)

他校のP T Aも様々な行事を計画しているのを聞いており、参考にしている。

【報告】

令和6年度について

- ・「令和6年度学校経営計画及び学校評価」について説明させていただく。現状では令和5年度の学校経営計画からの大きな変更は必要ないと考えている。1ページめで変更しているのは、それぞれの評価指標について、今年度の数値を元に一部目標値を変更したことと3年間の数値を令和3年度から今年度までのものに変更したことぐらいである。
- ・ただし、土曜日午前の活用について学校教育自己診断での数値が低いこともあり、現在、校内で改革の議論をしている。その中で、「土曜日午前の原則部活動禁止」を廃止する方向で検討をすすめている。そのため、1(1)については加筆修正しなければならないと考えている。
- ・また、府教育庁が働き方改革をすすめるにあたり、学校経営計画に部活動方針の徹底とそれに伴う評価指標を記述する旨の通知がまもなく出されると聞いている。本日の承認には間に合わないが、修正した内容については来年度第1回の学校運営協議会において承認を得るよう言われているところである。その2点の修正についてご理解いただきたい。
- ・2ページ以降についても令和5年度からの大きな変更はない。今年度の学校教育自己診断やアンケートの結果を踏まえて記述したものである。ただし、土曜日の活用、部活動方針の徹底に関わり、変更する項目が出てくるものと考えている。

【質疑応答】 なし

【報告】

- ・ではここからは、先ほどお話しした土曜日午前の学習(土曜学習タイム)に関する内容について説明させていただく。「学習時間の保障に向けた取組にかかるアンケート」をご覧ください。
- ・先ほどお話ししたとおり、土曜日午前の活用について学校教育自己診断での数値が低いこともあり、土曜日午前の在り方を検討するために、教員を対象としたアンケート調査を行った。アンケートの結果は継続と廃止でほぼ同数であり、様々な視点から意見が出された。その結果を踏まえ、来年度から「土曜午前の原則部活動禁止」は廃止する。ただし、年間10日はハイレベル講習や土曜講習を実施する日として設定し、土曜午前の部活動は禁止とする。なお、土曜日の自習室開放はこれまで通り行うこととする。以上の方向で検討をすすめている。
- ・「土曜午前の原則部活動禁止」は廃止するが、その目的はアンケートのタイトルにあるとおり、学習時間の保障に向けた取組をすすめることである。
- ・現状の土曜日は午後から部活動のため、生徒たちは起きる時間も遅く、「土曜学習タイム」がうまく機能していないと考えている。その点において、午前から部活動を行うほうが午後からの時間を有効に活用できるのではないかと考えているところである。

【質疑応答】

(委員) (笹島様)

そのように変更することによって教員の皆さんの働き方は苦しくならないのか。

(学校) (校長)

多くの教員の希望は土曜午前中も部活動を可能にしてほしいということであった。より自由度が高くなり調整しやすくなると考えている。

【報告】

- ・学校経営計画とは関係ないが、「朝読の時間」廃止についてアンケート調査を行った結果についてお話しさせていただく。このアンケートは第2回の学校運営協議会において「朝読の時間」廃止に関する生徒の考えと読書量の変化などについて質問があり、2年生、3年生を対象に実施したものである。
- ・「朝読の時間」廃止に伴う時間（授業終了時刻を10分早く設定）を有効に活用していますか。との問いに対して、2年生、3年生ともに、およそ65%の生徒が有効に活用していると回答した。一定数が有効に活用しているとの認識であり、廃止した意味はあったと考える。
- ・ただし、「朝読の時間」廃止に伴う読書時間の変化の結果から、半数を超える生徒が読書しなくなったと答えている。すなわち、読書するのは「朝読の時間」のみであったことが分かる。また、廃止したほうがよかったと答えた生徒は40%を超えており、多くの生徒にとって有効な時間であるという認識は薄かったのではないかと考えられる。
- ・一方で、廃止しないほうがよかったと答えた生徒も20%を超えていた。読書の時間と強制されているから読書できていた生徒がいることも明らかになった。本校の生徒は忙しいので、読書したい気持ちはあっても勉強しなければならない気持ちの方が強く、実際には読書できない生徒もいる。当然ではあるが、3年生のほうがその傾向が強く表れている。そのような生徒には、うまく隙間時間を見つけながら読書の時間を確保してもらいたい。

【質疑応答】

(委員) (長岡様)

「朝読の時間」においては、電子書籍も可能としていたのか。

(学校) (教頭)

近年は可能としていた。

④ 「大学入学共通テスト」の結果と分析（長谷川進路指導部長より）

【報告】

- ・全国の平均点について、5教科7科目理系は+9点、5教科8科目文系は+6点であり、昨年と比較するとやや易しかったと考えられる。特に国語、生物の平均点が上昇していた。本校の生徒については、理系は昨年と比較すると+10点となっており、全国の動向とほぼ一致しており例年通りということが出来る。文系については、平均点が下がっておりやや苦戦していると考えられる。国公立前期まで2週間を切っているが、最後まで粘り強く指導を行っていく。
- ・昨年度からでもあるが、5教科7科目理系、5教科8科目文系の受験者を今後も継続して増加させていきたいと考えている。本校に入学してくる6割を超える生徒が大阪公立大学以上の大学を進路希望としている。3年生まで志望し続けるために、英数国の基礎基本の早期定着を図りたい。模試の受験前後の指導の重要性がより感じられる。
- ・今年度の結果として、大阪公立大学医学部医学科の推薦で合格者が出た。2年連続の国公立大学医学部医学科への進学であり、学年団の教員をはじめとする本校の指導の成果が見られている。

【質疑応答】

(委員) (笹島様)

今年の「大学入学共通テスト」は難しくなったと聞いたがどうなのか。

(学校) (長谷川)

一般的には、全国平均点が上がったこともあり、昨年より易化したと考えられている。一方、問題の問い方に変化があったことに対して、本校の生徒には戸惑いがあったのではないかと推察される。

⑤ 「文理課題研究発表会」について（田坂首席より）

【報告】

- ・1月27日に実施した「文理課題研究発表会」について話しをさせていただく。2年生が1年間取り組んできた研究の成果を発表した。本校生以外に、他校の高校生も招待して発表した。さらに今回は、近隣の小中学生にも研究発表の機会を設け、小学生4名が自由研究の成果を発表した。
- ・今後は本校生の更なる研究の活動内容の深化をめざすとともに、今以上に広く公開し保護者や他校の高校生はもちろん、小中学生や地域の方々にも参加いただき、本校の課題研究の取組について知ってもらおう機会としていきたい。

【質疑応答】

（委員）（笹島様）

小学生の発表を拝見したが、すごく生き活きとした姿を見ることができた。この経験が将来的に岸和田高校への進学希望に繋がると良いと感じた。

（学校）（校長）

課題研究の取組について追加して話しをさせていただく。大阪府生徒研究発表会において、本校から3グループが発表し、2グループが優秀賞を獲得した。8つの分科会のうち2つの分科会で最も優れた発表であったということである。これらの生徒はSSH（スーパーサイエンスハイスクール）事業で取組を始めた“プロジェクトNova”というメンバーの生徒たちである。

また、大阪府学生科学賞において、最優秀賞6本あるうち、本校の3年生が2本を獲得した。そのうち大阪府知事賞を獲得した3年生が日本学生科学賞において「文部科学大臣賞」を受賞するという快挙を果たした。

（委員）（新田谷様）

どれぐらいの生徒が英検を取得しているのか。

（学校）（校長）

英検については、入学者選抜に向けて、高校入学段階で多くの生徒が取得してきている。

3 来年度の予定（案）

- 第1回 令和6年5月15日（水）15：00～
- 第2回 令和6年10月16日（水）15：00～
- 第3回 令和7年2月12日（水）15：00～

4 校長より

- ・本日は貴重な意見をいただき、感謝する。いただいた意見を踏まえ、来年度からの教育活動の充実に取り組んでいきたい。
- ・中西委員には6年間本校の学校運営協議会委員としてお世話になった。任期が切れることもあり、今年度限りとなる。私が高等学校課指導主事のとときの教育長として大変お世話になった思い出がある。また、昨年度校長として赴任し、再びお会いすることができ、とても嬉しかったことを思い出す。長期間、どうもありがとうございました。
- ・同窓会の新田谷会長とPTAの笹島会長についても、学校運営協議会委員としては本日が最後になる。どうもお世話になりました。